

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	キリスト教音楽 (Christian Music)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	クリスマスと音楽		
担当者名 (Instructor)	佐藤 康太(SATO KOTA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMP2300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

クリスマスとそれに関する音楽の歴史的／音楽学的／社会学的考察を通じて、身近なものに対する学術的なアプローチ方法を身につける。キリスト教とその音楽に関する基礎的な知識を得る。

Participants will learn methods to think academically about everyday subjects through the historical / musicological / sociological approach to Christmas. Participants will acquire basic knowledge about Christianity and its music.

授業の内容(Course Contents)

イエス・キリストの誕生を祝う日、家族で過ごす日、恋人と過ごす日、チキンを食べる日、ケーキを食べる日、サンタさんが来る日…クリスマスと一言に言っても、そこには極めて多様な意味づけが存在します。この授業では、クリスマスに(多かれ少なかれ)関連するさまざまな音楽を取り上げながら、歴史上人々がキリストの降誕とどのように関わってきたのかを考えます。それぞれの授業は1つあるいは複数の聖句に基づいて行われます。授業の前半ではルカによる福音書におけるイエスの降誕を紐解きながら、それと関連するさまざまな音楽を取り上げます。後半(現実の待降節ごろから)は、実際の教会暦の進行に合わせて、それぞれの日曜日の礼拝に定められた聖句を取り上げつつ、それと関連する音楽を紹介します。対象についてはいわゆる「クラシック音楽」を中心にしますが、讃美歌や民謡、ポピュラー音楽まで、その回のトピックや学生の要望に応じて幅広く選択していきます。

A day for a family or a beloved, a day to eat chickens, turkeys, geese, cakes and whatever, a day Santa Claus comes... and of course a day celebrating the birth of Jesus Christ. The Christmas day is a day of multiple meanings. Focusing on the music related (directly or indirectly) to Christmas, the lecturer will show how people have been involved in the birth of Christ. Each lecture is based upon a phrase from the Gospel. In the first half of the semester the lectures start with the Christmas narrative from St. Luke's Gospel. In the second half, from around the first Advent Sunday, the lectures will be built upon phrases read in the services of each Sunday. The music discussed in the course is selected mainly from a standard repertory of the so-called classical music. But Christmas carols, traditional songs, and popular music can also be included, when the topic of a lecture allows it. Requests from the participants will also be considered.

授業計画(Course Schedule)

1. クリスマスの聖と俗：サンタクロース、贈り物、福音書、聖人伝、教会暦
2. クリスマスの讃美歌とその起源
3. *Ave Maria, glatia plena*—受胎告知
《アヴェ・マリア》
4. *Quem pastores laudavere*—ベツレヘムの飼葉桶に集う羊飼いたち
コレリ《クリスマス・コンチェルト》、バッハ《クリスマス・オラトリオ》第2部
5. *Gloria in Excelsis Deo*—栄光の主
《あら野の果てに》、ヘンデル《メサイア》
6. *Et in terra pax*—平和への祈り
ジョン・レノン《Happy Xmas》、さだまさし《遥かなるクリスマス》
7. *De profundis*—闇の中の光
ドイツのクリスマス・ソング《ああ厳しい冬よ》、《エサイの根より》、《マリアがいばらの森を》
8. アドヴェント第1主日—洗礼者ヨハネ、エルサレム入城
ヘンデル《メサイア》第1部冒頭、バッハ《いざ来ませ、異邦人の救い主》BWV 61
9. アドヴェント第2主日—再臨と審判
モーツァルト《レクイエム》
10. アドヴェント第3主日—主のおける喜び
《もろびと声上げ》、《神の御子は今宵しも》、バッハ《クリスマス・オラトリオ》第1部

11. アドヴェント第4主日——マリアとエリサベト
《マニフィカト》
12. クリスマス——聖書と音楽で辿る降誕
13. 主の公現——異邦人の光
リスト《キリスト》
14. まとめ——クリスマスの多義性

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業で扱った聖句を含む聖書箇所幅広く目を通す。授業で扱った作品を、復習しつつもう一度聴く。授業内容を踏まえつつクリスマスの過ごし方を考える。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/授業内課題(40%)

5回以上の欠席は単位放棄と見なす。

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. K.-H. ビーリッツ、2003、『教会暦：祝祭日の歴史と現在』、教文館 (ISBN:4764272210)
2. ジュディス・フランダース、2018、『クリスマスの歴史：祝祭誕生の謎を解く』、原書房 (ISBN:9784562056095)
3. 嶺重淑、波部雄一郎(編)、2014、『よくわかるクリスマス』、教文館 (ISBN:9784764273870)

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

授業内課題を Blackboard 上でやってもらいますので、必ずインターネットにつながる電子機器を持ちこんでください。
音楽に関する専門知識は必ずしも必要ありませんが、まれに楽譜を配る可能性があります。

注意事項 (Notice)